

Titan

= フォルダ監視・機能概要 =

2011.07.13

フォルダ監視の基本機能

フォルダ監視の基本機能

指定されたフォルダ内のファイルに関するイベントを監視し、そのイベントに紐付けられた処理を実施します。処理実施の条件となるイベントは、「**ファイル作成**・**ファイル削除**・**ファイル更新**」の3条件です。尚、「**フォルダ作成**」等のフォルダに関するイベントは、監視の対象から除外されます。

(1) イベントの対象となるファイルの定義

フォルダ監視の対象となるファイルは、「**ファイル拡張子**」が基本となりますが、特定のファイル名を対象とした条件定義も可能です。例えば、ファイルの一部に「**read**」が含まれるテキストファイルを監視したい場合、監視条件として「***read*.txt**」と定義して下さい。ファイル名の一部に本定義条件が含まれていた場合、監視イベントの条件が成立したと判断します。

(2) 条件に対するアクションの定義

個々のイベント(作成・削除・更新)に対して、それぞれ、「**コピー**・**移動**・**リネーム**・**削除**」の各処理を定義できます。また、「**コピー**・**移動**・**リネーム**」を実施する場合、その処理の最終ファイル名に対して、定義情報単位で任意のユニークなファイルの割当を行う事も可能です。

(3) オプション機能の紐付け

イベントに対するアクションの実行後、その処理結果に基づいて外部プログラム(**メール送信等**)を実行する様に定義する事も可能です。そのプログラムに渡すパラメータ情報の編集機能も提供しています。

(4) オプション機能の実行条件

オプション機能の実行条件として、アクションが「**正常終了**・**異常終了**・**無条件で実行**」で終わった場合に実行する定義も登録可能です。また登録のみを行い、「**実行は行わない**」形式の登録もサポートしています。

フォルダ監視の登録手順

フォルダ監視の登録画面の起動

メニューバーの「オプション登録/ツール(T)」を選択して下さい。表示されたPOPUPメニューの「更新イベントを監視...」項目を選択して下さい。

フォルダ監視に関する登録内容の一覧表示、及び登録画面が起動されます。

本画面を終了する場合は、「中止(C)」をクリックして下さい。

デフォルト命名規則とは、登録イベントに基づき何らかの処理を実施した場合に、その処理結果として展開するファイルに対して適用する、ファイル名の命名規則の事です。

本フィールドに登録されている内容が、新規イベントの実行条件のファイル命名規則に適用されます。

デフォルト命名規則について

「EVENT_FILE.Y.M.D.SEQNO.EXTD」標準の命名規則です。尚、上記の表記文字は全て予約語です。

「Y.」イベントの発生年を展開します。

「M.」イベントの発生月を展開します。

「D.」イベントの発生日を展開します。

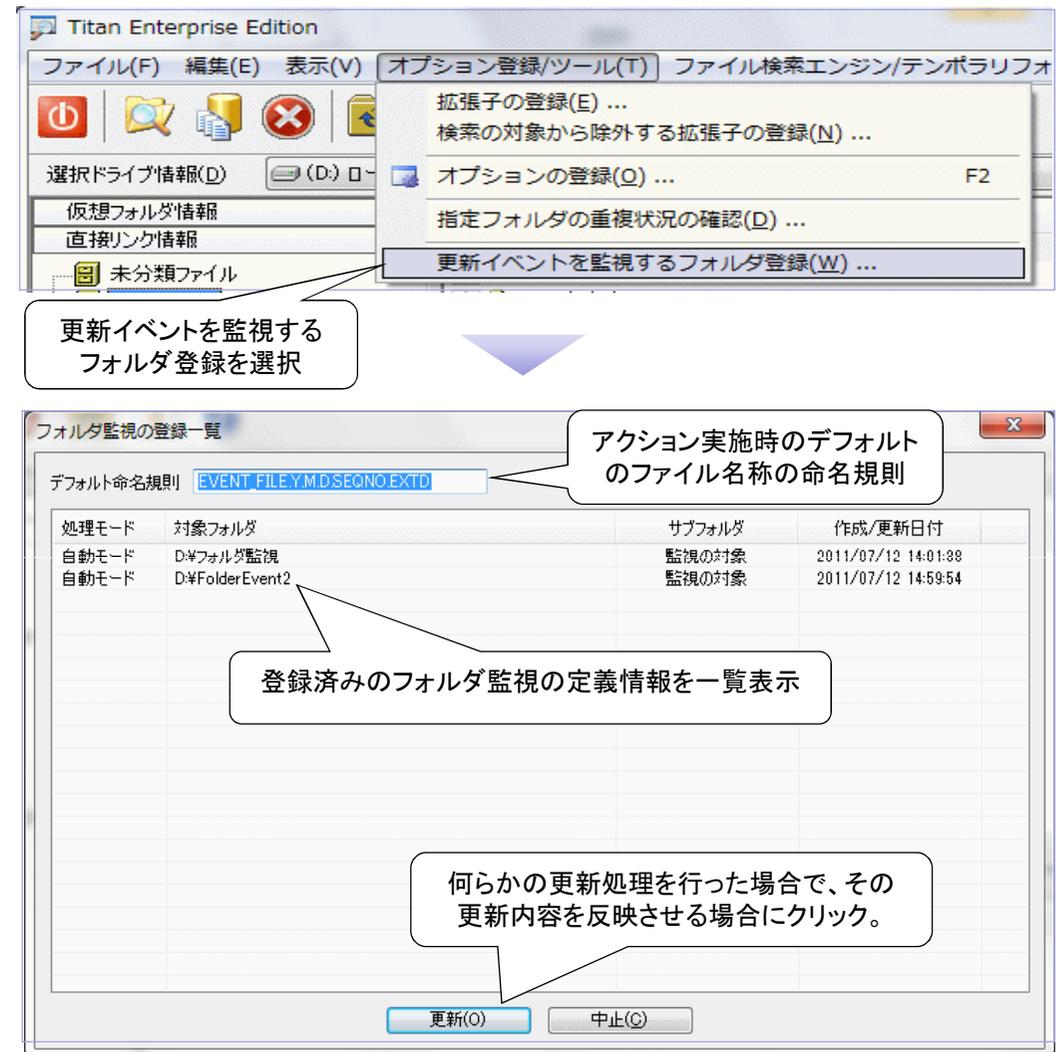
「SEQNO.」展開ファイルの作成連番を展開します。

「EXTD.」イベントファイルのファイル拡張子を展開します。

新規/更新/削除登録について

本画面のリストデータ表示位置内で、マウス右クリックを行って下さい。

POPUPメニューが表示されます。



フォルダ監視の登録・詳細2

フォルダ監視の条件登録・2

実行する条件

「作成・削除・更新」の各条件が登録可能です。
尚、上記条件を同一データに複数登録する事は出来ません。
必ず、いずれか一つの条件を選択して下さい。

対象拡張子

本詳細登録データの実行条件となるファイル拡張子を登録します。
尚、本フィールドには、1ファイル拡張子のみを登録して下さい。
複数の拡張子を登録する事は出来ません。
また、基本登録で登録した拡張子以外を登録する事は可能ですが、その場合は、実行される事は有りません。

特定のファイル名を持つファイルを対象とする場合。
ある特定のファイル名を持つファイルの処理を実施する場合は、
下記内容の登録を行って下さい。
「read*.txt」前方一致でのイベント実行。
「*read*.txt」部分一致でのイベント実行。
「*me.txt」後方一致でのイベント実行。
尚、拡張子の省略は不可です。

フォルダ監視の登録一覧

デフォルト命名規則 EVENT_FILE.Y.M.D.SEQNO.EXTD

処理モード	対象フォルダ	サブフォルダ	作成/更新日付
自動モード	D:\フォルダ監視	監視の対象	2011/07/12 14:01:38
自動モード	D:\FolderEvent2	監視の対象	2011/07/12 14:59:54

フォルダ監視の条件入力

監視するフォルダ位置 D:\フォルダ監視

監視対象の拡張子 txt,abc,bbb,pdf

監視内容の詳細 サブフォルダも監視の対象(S)

実行条件	対象拡張子	アクション	命名規則	結合子	ターゲット
作成	txt	移動1	EVENT_FILE.Y.M.D.SE...	.	D:\フ...
作成	abc	削除2	EVENT_FILE.Y.M.D.SE...	.	
作成	bbb	リネーム		.	
作成	*eve.pdf	移動1	EVENT_FILE.Y.M.D.SE...	.	D:\フ...

実際の処理内容を設定

実行する条件 作成 対象拡張子 txt

アクション 移動 命名規則 EVENT_FILE.Y.M.D.SEQNO.EXTD

移動エラーでも元ファイルは削除(M) 結合子 .

削除アクションでのイベントも対象(N) 移動パス D:\フォルダ監視・移動

オプションの実行条件 正常

CALLプログラム D:\SonicWin\Saturn\smail-v4.11\smail.exe

パラメータ情報 -hmailhost.co.jp -fsender@host.co.jp -s作成イベント-T移動OK_receiver@hostlco.jp -S

パラメータファイル1

パラメータファイル2

パラメータファイル3

パラメータファイル4

パラメータファイル5

フォルダ監視の登録・詳細3

フォルダ監視の条件登録・3

アクション

「無処理・コピー・移動・リネーム・削除」の各アクションを実行する事が可能です。

「無処理」

発生したイベントを検知するのみで、特別なアクションは実施しないが、オプション処理は実行させる、形式での利用が可能です。

「コピー」

発生したイベントに該当するファイルを、指定されたフォルダにコピーします。その際にイベントファイルは、監視フォルダ上に残ります。

「移動」

発生したイベントに該当するファイルを、指定されたフォルダに移動させます。移動エラーが発生した場合に、そのファイルの取り扱いを個別に登録する事も可能です。

「リネーム」

同一フォルダ上でリネーム処理を実施します。別フォルダにリネームするので有れば、その処理は「移動」と同じですので、別フォルダへのリネーム処理は、移動で登録して下さい。

「削除」

発生したイベントに該当するファイルを、削除します。

実際の処理内容を設定

実行する条件	作成	対象拡張子	txt
アクション	移動	命名規則	EVENT_FILE.Y.M.D.SEQNO.EXTT
	<input checked="" type="checkbox"/> 移動エラーでも元ファイルは削除(M)	結合子	.
	<input type="checkbox"/> 削除アクションでのイベントも対象(N)	移動パス	D:\フォルダ監視\移動
オプションの実行条件	正常		
CALLプログラム	D:\SonicWin\Saturn\smail-v4.11\smail.exe		選択(1)
パラメータ情報	-hmx g-wise.co.jp -fyasuda@g-wise.co.jp -sTEST -T送信テスト yasuda@g-wise.co.jp -S		
パラメータファイル1			選択(2)
パラメータファイル2			選択(3)
パラメータファイル3			選択(4)
パラメータファイル4			選択(5)
パラメータファイル5			選択(6)

更新(O) 中止(C)

フォルダ監視の登録・詳細4

フォルダ監視の条件登録・4

命名規則

コピー・移動・リネームを実施する際の最終ファイル名称には任意のファイル名を割り当てる事が可能です。

デフォルトの命名規則は、「EVENT_FILE.Y.M.D.SEQNO.EXTD」ですが、ファイル名の部分には特定のファイル名を、拡張子も特定の拡張子を、命名規則の順序を任意の順序で、等の編集が可能です。

「Y.M.D.EVENT_FILE.SEQNO.EXTD」

↑ 上記命名規則で作成されるファイル名

(Readme.txtファイルはイベントファイル、当日1回目)

2011.07.13.Readme.1.txt

「任意のファイル名」

「EVENT_FILE.Y.M.D.SEQNO.EXTD」の EVENT_FILE の箇所を “監視テキスト” の形式で書き換えて下さい。

必ず、“で始まり“で終えて下さい。その記号で括られた文字をファイル名の部分に適用します。

例題の場合に作成されるファイル名

命名規則：「”監視テキスト”.Y.M.D.SEQNO.EXTD」

作成名称：監視テキスト.2011.07.13.1.txt

「任意のファイル拡張子」

「EVENT_FILE.Y.M.D.SEQNO.EXTD」の EXTD の箇所を ‘abc’ の形式で書き換えて下さい。

必ず、’で始まり’で終えて下さい。その記号で括られた文字をファイル名の拡張子部分に適用します。

命名規則の矛盾に関して

ファイル命名規則は必須項目では有りませんので、未定義の状態でも処理は実行されます。

その場合は、イベントの対象となったファイルのファイル名がそのまま適用されます。また、命名規則に矛盾が存在した場合(ファイル名の多重登録等)も、展開ファイル名にイベントファイル名を適用します。

作成連番について

ファイル名の作成連番は「1」から開始され、ファイル名の重複が無くなるまで連番をカウントアップします。

ですので、ファイル命名規則に作成連番を含めた場合のみ、ファイル名の重複確認が行われます。

尚、処理当日のイベント連番では有りませんので注意が必要です。また、処理件数の管理も行っておりません。

フォルダ監視の登録・詳細5

フォルダ監視の条件登録・5

結合子

結合子とは、命名規則の「EVENT_FILE.Y.M.D.SEQNO.EXTD」各展開項目を結合する文字に適用する文字コードです。

「.、-、_、なし」を登録する事が可能です。

なしを選択した場合、監視テキスト201107131.txtの形式で最終のファイル名が組み立てられます。

但し、ファイル命名規則の最終項目に「EXTD」を指定した場合、及び「EXTD」の指定無しの場合、結合子の指定が「.」以外の場合でも、ファイル拡張子の分離文字には「.」が適用されます。

例

事象ファイル : Readme.txt
 命名規則 : 「EVENT_FILE.SEQNO.Y」
 結合子 : 「-」
 作成するファイル名 : Readme-1-2011.txt

移動エラーでも元ファイルは削除

アクション指定に移動を指定した場合、そのファイルの移動が行えなかった場合でも、その対象ファイルを監視フォルダに残さない場合はチェックして下さい。

削除アクションでのイベントも対象

アクション指定に削除を指定した場合、そのファイルの削除を行った場合に、その削除もイベントとして検知しますので、通常はそのイベントは除外しています。そのイベントを除外しない場合にチェックして下さい。

The screenshot shows a dialog box titled "実際の処理内容を設定" (Actual Processing Content Setting). It contains the following fields and options:

- 実行する条件** (Execute Condition): 作成 (Create)
- 対象拡張子** (Target Extension): txt
- アクション** (Action): 移動 (Move)
- 命名規則** (Naming Rule): EVENT_FILE.Y.M.D.SEQNO.EXTD
- 結合子** (Separator): .
- 移動エラーでも元ファイルは削除(M)** (Delete original file even if move fails)
- 削除アクションでのイベントも対象(N)** (Include events in delete action)
- 移動パス** (Move Path): D:\フォルダ監視・移動
- オプションの実行条件** (Option Execution Condition): 正常 (Normal)
- CALLプログラム** (CALL Program): D:\SonicWin\Saturn\smail-v4.11\smail.exe
- パラメータ情報** (Parameter Information): -hmx.g-wise.co.jp -fyasuda@g-wise.co.jp -sTEST -T送信テスト yasuda@g-wise.co.jp -S
- パラメータファイル1-5** (Parameter Files 1-5): Empty fields with "選択(1)" through "選択(6)" buttons.
- Buttons:** 更新(O) (Update), 中止(C) (Cancel).

フォルダ監視の登録・詳細6

フォルダ監視の条件登録・6

移動パス

コピー及び移動アクションを実施する場合に、その移動先のフォルダ情報を登録します。

オプションの実行条件

アクションの実施後に、特定処理を行う場合にその条件を設定します。

定可能な条件は、「実行無し・無条件・正常・異常」の各条件を設定する事が可能です。

「実行無し」
なにも行いません。

「無条件」
アクションの処理結果に関係なく、オプション処理を実行します。

「正常」
アクションが正常に行えた場合のみ、オプション処理を実行します。

「異常」
アクションが異常で終わった場合のみ、オプション処理を実行します。

オプション処理は、アクションの実行後に行います。
アクションの実行前に行う事はありません。

The screenshot shows a dialog box titled "実際の処理内容を設定" (Actual Processing Content Setting). It contains the following fields and controls:

- 実行する条件** (Execute Condition): 作成 (Create)
- 対象拡張子** (Target Extension): txt
- アクション** (Action): 移動 (Move)
- 命名規則** (Naming Rule): EVENT_FILE.Y.M.D.SEQNO.EXTT
- 移動エラーでも元ファイルは削除(M)** (Delete original file even if move fails)
- 削除アクションでのイベントも対象(N)** (Include events in delete action)
- 移動パス** (Move Path): D:\フォルダ監視\移動 (D:\Folder Monitoring\Move)
- 結合子** (Separator): .
- オプションの実行条件** (Option Execution Condition): 正常 (Normal)
- CALLプログラム** (CALL Program): D:\SonicWin\Saturn\smail-v4.11\smail.exe
- パラメータ情報** (Parameter Information): -hmx:g-wise.co.jp -fyasuda@g-wise.co.jp -sTEST -T送信テスト yasuda@g-wise.co.jp -S
- パラメータファイル1-5** (Parameter Files 1-5): Empty fields with selection buttons (選択(1) to 選択(6)).
- Buttons:** 更新(O) (Update), 中止(C) (Cancel).

フォルダ監視の一連の動きについて

フォルダ監視の一連の動きをご説明します。

監視フォルダ : test	ファイル命名規則 : EVENT_FILE.Y.M.D.SEGNO.EXTD
監視拡張子 : txt	移動先フォルダ : Move
イベント条件 : 作成	オプション条件 : 正常
アクション : 移動	オプションプログラム : コマンドラインメール送信プログラム

